いわき陸上競技協会活動再開に当たってのガイダンス

（公財）日本陸上競技連盟の方針に基づき、出来る限り感染リスクを軽減させた手段・方法で競技会を開催する.

競技会開催に当たっての基本注意事項(陸連からの基本指針)

1．3密を回避.
2．感染症対策.（手洗い・消毒・マスク着用等）
3．主催者としてすべきこと
・開催地および医師会・医療機関の協力を得る.
・3密を解消する工夫の徹底.
・清潔・除菌し環境を清潔に保つ.（消毒に有効な薬剤：アルコール 70%程度のもの、次亜塩素酸 0.05%溶液等）
・参加者全ての人に開催地の新型コロナウイルス感染症に関する状況を伝える.
4．競技会に関わる全ての人（競技者・審判員・チーム関係者・メディア等）がすべきこと
・3密を避けて行動する.
・体調管理を徹底する.
・競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合は最寄りの保健所・医師会・診療所等に報告し、保健所等に相談後必ず大会主催者に報告する.
5．大会主催者は競技会開催の基本情報と前提条件の確認（提出用チェックリスト）に必要事項を記入し、大会開催2週間前までに都道府県陸協に提出すること.

競技会開催に当たって(いわき陸上競技協会)

1．3密の回避
・室内の窓を定期的に開け換気する.
・ソーシャルディスタンス確保の工夫.（審判控え場所・選手控え場所等）
・近距離での会話対策.
2．競技者に対し実施すること
・**1週間前からの検温**を義務付け、**指定の体調管理チェックシート(別紙シート)に記載し提出**させる.
また、大会終了後2週間は体調管理を行う.（**別紙シートに記載し各自保管**）
・記載した体調管理チェックシートを**大会本部に提出**.（学校等はまとめて提出）
提出していない選手は出場不可とすることが出来る.
・疑わしい競技者がいた場合は、その場で検温し状況により参加を許可しない.
・マスク着用.（運動時以外はマスク着用を義務とする）
・手洗い・手指消毒・洗顔を欠かさない.
3．消毒液の準備.
4．医務室に看護師等の配置.
5．医務室にフェイスシールド、手袋、マスク等を準備.
6．医務室以外に隔離室を**男子更衣室内**に設ける.

7．審判員と選手の動線を出来る限り分ける．

競技者に対する配慮事項

1．競技者の体調管理チェックシートをチームの代表者がまとめて主催者に提出する．
2．ウォーミングアップは個別に行う．
3．競技用具使用後は手洗いを行う．
4．更衣室の滞在時間を短時間にする．尚、**シャワーは当面の間使用禁止**とする．
5．運動中につばや痰を吐かない．
6．ごみは各自持ち帰る．

競技役員に対する配慮事項

1．文書・メール等を活用し、打ち合わせ等を減らす．
2．参加者数に応じた審判員を委嘱する．
3．当面の間、重症化しやすい 70 歳以上の競技役員には委嘱しない場合がある．
4．重症化しやすい基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析を受けている、免疫抑制剤・抗がん剤等を用いている）がある方は辞退してもらう．
5．3 密の回避行動、マスクの着用（状況次第ではマスクを外しての審判業務に当たることもある）
6．用器具・通信機器・審判用具・計測機器・情報端末その他の共用物の使用後は手洗い・手指消毒・洗顔等を欠かさない．

応援者・観客に対する配慮事項

1．**7 月末までは無観客**とする．
2．声を出しての応援、集団応援は行わない．
3．競技者に付き添う場合の接触、ソーシャルディスタンスを確保、会話に注意する．
4．競技者に付き添う者のウォームアップ場への立ち入りを最小限とする．

競技運営の配慮事項

1．3 密を回避するため**競技会参加人数を極力減らす努力**をする．
2．招集所での手続きについては簡略化し滞在時間を短縮する．（待機させない方法）
　・招集完了 5 分前までに各自チェックを済ませ直ちにスタート地点へ移動させる．
　・トラック種目における腰ナンバー（ビブス）をチェック時に配布する．
3．選手紹介は簡略化する．
4．表彰式は行わず各校ごとに賞状を配布する．（開閉会式も行わない）
5．会場アナウンスでコロナウイルス対策を積極的にアナウンスする．

（トラック種目関係）

・長距離種目の給水については、競技役員・補助員は開始前に手洗い・消毒を実施、マスク・手袋を着用する．また競技役員・補助員の熱中症に配慮し、使用した紙コップは再利用しない．
・長距離レースの密接を避けるために各組の人数を適正人数とする．

1500m（12名～15名）、3000m・3000mSC（15名～18名）、
5000m（20名～25名）⇒18名以上の場合2段階スタートで実施する.

・ゴール後の腰ナンバー（ビブス）の回収は、ゴール付近に用意しておくカゴに競技者自ら戻す.

（フィールド種目関係）

・待機場所の密接に注意する．待機用テントの増設を検討する.

・投てき物は競技場備え付けを共用で使用し、競技終了後の手洗い・洗顔を実施させる.

・投てき競技の滑り止め（炭酸マグネシウム）の利用については、競技役員又は補助員から適量を受け取る方式とする．また競技者の持ち込みも可とする.

・跳躍競技における助走練習等でも密接を避けるよう注意する.

・待機中はマスク着用とする.

その他

・競技役員への協力依頼

競技役員は**1週間前からの検温**を義務付け、**指定の体調管理チェックシート(別紙シート)に記載し**、当日朝に大会本部に提出する．また、大会終了後2週間は体調管理を行う.（別紙シートに記載し各自保管）

発熱・体調不良等が確認された場合は無理せず欠席すること．また疑わしい場合は検温を実施する．競技役員用の**昼食や茶菓**については当面の間**各自で対応**してもらう.

・報道取材者への協力依頼

取材時はマスク着用.（HPで通知）

大会1週間前からの検温・体調管理チェックシートの提出.（HPで通知）⇒大会本部で受け付け時に提出．また、大会終了後2週間の検温・体調管理を行う.

1社1名でお願いする.（受付時に報道用ビブス配布）

・大会終了後の対応

毎日、大会終了後消毒を実施.（机、いす、ドアノブ、パソコン、使用器具等）

・参加者への周知事項と主催者の対応について

① 参加者は症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの保健所・医療機関等に報告し大会主催者に報告する.

② 主催者は大会終了後、2週間以内に感染の報告を受けた場合、感染確定の情報入手し、開催自治体の衛生部局に連絡し、指示に従い協力する.

③ 感染症のまん延を防止し、感染症による健康リスクが個人や社会に与える影響を最小限にするために感染症の発症状況等に関する情報を積極的に公表する必要がある．なお、当該情報の公表に当たっては、感染者等に対して不当な差別及び偏見が生じないように、個人情報の保護に留意する.

観客に対する感染予防対策

① 発熱、咳、倦怠感、咽頭痛などが見られる場合は観戦できない.

② 入場時の手洗い・手指消毒・マスクの着用を徹底する.

③ 他者との距離を十分確保し、大声での応援はしない.

④ 観客から感染者が出た場合、観戦者が何時にどの座席に座っていたか申告して貰う.